

1. 「サイバーセキュリティ意識・行動強化プログラム」の策定経緯

- 「サイバーセキュリティ戦略」(2018年7月閣議決定)に基づき、産学官民の関係者が円滑かつ効果的に活動し、有機的に連携できるよう、サイバーセキュリティの普及啓発に向けた総合的な戦略及びアクションプランとして策定(2019年1月)。
- 同プログラムについては、個別の施策の実施状況のフォローに加え、本プログラム自体の内容・効果についても定期的に評価を行うことにより、PDCAサイクルを回していくこととしている。

(参考)同プログラムにおけるPDCAに関する記述(P.25)

(5)PDCAサイクルによる継続的な改善

「ポータルサイトに掲載した官民の取組について、その個別の実施状況をフォローすることに加え、サイバー空間における技術・サービスの進展を踏まえた個人・企業における被害や具体的対策の実施状況等を分析し、今後注力すべき対象や取組を精査、明確化するなど、本プログラム自体の内容・効果についても定期的に評価を行うことにより、PDCAサイクルを回していく。」

2. PDCAサイクルによる継続的な評価・改善に向けたデータの整理

- サイバーセキュリティの普及啓発に係る状況を特徴づける事項について、次頁の通り、継続的に収集しうる代表的な客観的なデータを前広に収集し、整理。
- これらの事項やデータには、施策や官民の取組に限らず、様々な要因の影響を受けるものがあるため、本資料のデータは関係府省庁が講ずる個々の施策の評価にそのまま活用することを目的としたものではない。
- 一方で、これらのデータの推移を継続的に参照することにより、本プログラム全体の効果を評価し、各施策における重点的な取組内容を調整するなどの対応に繋げていくことが考えられるのではないか。

(参考1) 普及啓発の目標(アウトカム)及び現状に関する記述

サイバーセキュリティ戦略(2018年7月)

4. 4 横断的施策

4. 3. 3 全員参加による協働

「サイバー空間で活動する主体としての国民一人一人がサイバーセキュリティに対する意識・理解を醸成し、サイバー空間における様々なリスクに対して対処できることが不可欠」

サイバーセキュリティ意識・行動強化プログラム(2019年1月)

2. 現状 ①個人の状況

「サイバー空間におけるサービスの利用が拡大し、国民の「生活」へ浸透するのに伴い、国民のサイバー空間に対する不安感も拡大を続けている。」

「不安感の拡大が、必ずしも個人レベルでの具体的な対策の実施に十分に結びついていない状況が伺える。」

(参考2) 政策評価、独立行政法人評価といった評価体系において用いられている指標の例

政策評価での例

施策目標 — 測定指標、参考指標

独法評価での例

中長期目標、評価軸 — 評価指標、モニタリング指標

行政事業レビューでの例

成果目標 — 活動指標・活動実績(アウトプット)、成果指標・成果実績(アウトカム)

継続的に収集しうる代表的なデータ

個人に関する取組

対策状況

: 個人における具体的対策の実施状況に関するデータ

- ① 情報セキュリティに関する攻撃・脅威等の認知度・理解度
- ② 情報セキュリティに関する日常の行動
- ③ 情報セキュリティ対策の実施状況
- ④ 金融機関のインターネットバンキングの利用について
- ⑤ スマートデバイスのセキュリティ対策の実施状況
- ⑥ インターネットや情報に関する倫理教育の受講経験
- ⑦ 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果(ILAS)

被害

: 被害に関するデータ

- ⑧ サイバー犯罪の検挙件数
- ⑨ インターネットバンキングにおける不正送金被害

不安感

: 国民のサイバー空間に対する不安感

- ⑩ 治安に関する世論調査
- ⑪ インターネット利用に関連するトラブルへの不安感
- ⑫ インターネット利用に関連するトラブルへの不安感(地域別)

※データの出所

- ・ 情報セキュリティの脅威に対する意識調査(情報処理推進機構(IPA))【毎年調査】
- ・ 情報セキュリティの倫理に対する意識調査(情報処理推進機構(IPA))【毎年調査】
- ・ 青少年のインターネット・リテラシー指標等に係る調査結果(ILAS)(総務省)【毎年調査】
- ・ 治安に関する世論調査(内閣府)【近年では2004年、2006年、2012年、2017年】
- ・ インターネットの安全・安心に関する世論調査(内閣府)【近年では2007年、2015年、2018年】

※次頁以降、データに付した赤字・赤印は事務局で加えたもの。

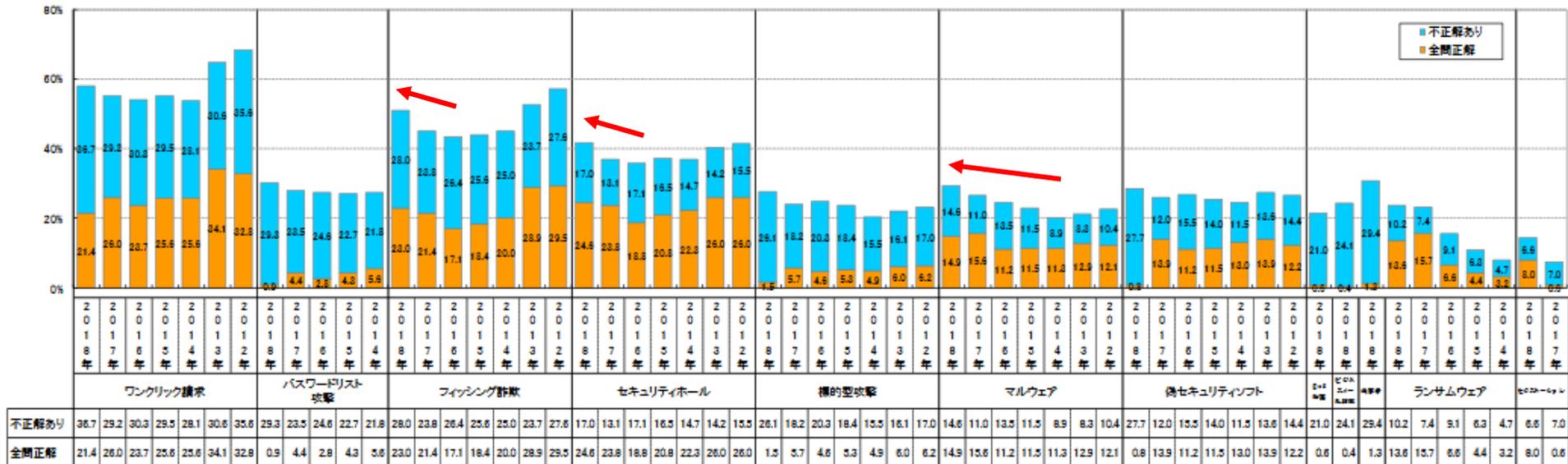
① 情報セキュリティに関する攻撃・脅威等の認知度・理解度

対策状況

■ 情報セキュリティに関する攻撃・脅威等の理解度について、全問正解の割合をみると、「セキュリティホール」(24.6%)が最も高い。次いで「フィッシング詐欺」(23.0%)、「ワンクリック請求」(21.4%)、「マルウェア」(14.9%)、「ランサムウェア」(13.6%)と続く。

【Q8】 次に挙げる攻撃や脅威などの概要や特徴に関する説明の内容が正しいか、間違っているかを選択してください。(お答えはそれぞれ1つずつ)

※インターネット上での各攻撃・脅威を問う設問において、全3問正解の場合を「全問正解」、正解が2問以下の場合を「不正解あり」と定義している。
 ※n数を調査対象者全体として算出。 2018年:n=5000 2017年:n=5000 2016年:n=5000 2015年:n=5000 2014年:n=5000 2013年:n=5160 2012年:n=5000



※「DoS(サービス妨害)攻撃」「ビジネスメール詐欺(BEC)」「偽警告(サポート詐欺)」は今年度から追加した設問
 ※「セクストーション(性的脅迫)」→2017年以前は「セクストーション」

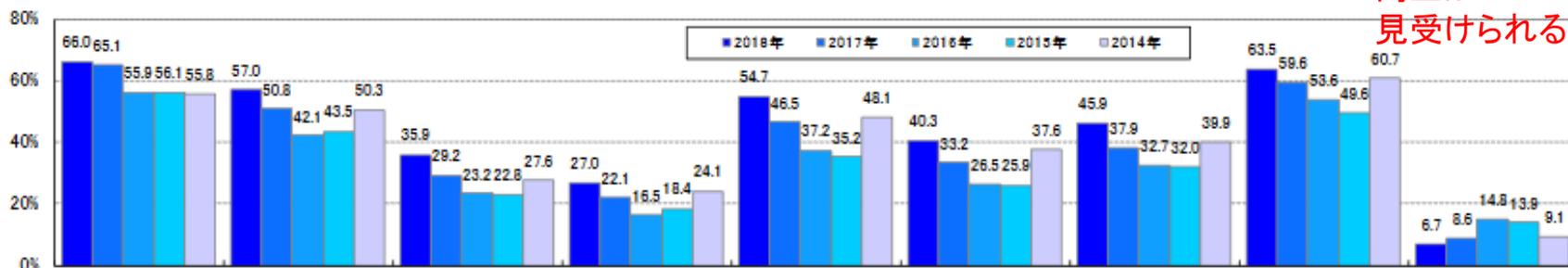
出所:2018年度 情報セキュリティの脅威に対する意識調査 - 調査報告書 - (情報処理推進機構)

② 情報セキュリティに関する日常の行動

- 情報セキュリティに関する日常の行動について最も高いのは、「パソコンには、ログインパスワードを設定している」(66.0%)である。次いで「知らない人からの電子メールの添付ファイルは、開かずに削除する」(63.5%)、「ウイルス対策ソフトのパターンファイルは常に最新の状態でしている」(57.0%)、「ウェブ閲覧中に、意図しないアプリケーションのインストールファイルがダウンロードされる場合は、キャンセルする」(54.7%)と続く。
- 年代別で見ると、70代以上は「個人のホームページや怪しいサイトにあるソフトウェアは、ウイルスに感染する可能性が高いので使わない」が12.8ポイント、「知らない人からの電子メールの添付ファイルは、開かずに削除する」が14.2ポイント全体に比べて高い。
- パソコン習熟度で見ると、「ウイルス対策ソフトのパターンファイルは常に最新の状態でしている」がレベル4は14.9ポイント、レベル3は10.5ポイント、「OSのアップデートと共に、インストールしているソフトウェアも最新のバージョンに更新している」がレベル4は17.9ポイント、レベル3は10.5ポイント、レベル4は「氏名や住所、クレジットカード番号などを入力する時は、アドレスバーのURLを必ずチェックし、安全な設定になっているかを確認する」が17.4ポイント、「ブラウザのセキュリティ設定は常に高くし、表示されない場合だけ指示に従って設定している」が12.3ポイント全体に比べて高い。
- 前年(2017年)と比較すると、多くの項目で5ポイント以上スコアが増加している。

【Q24】 あなたは以下の行動をとっていますか。あてはまるものをすべて選択してください。(お答えはいくつでも)

向上が見受けられる



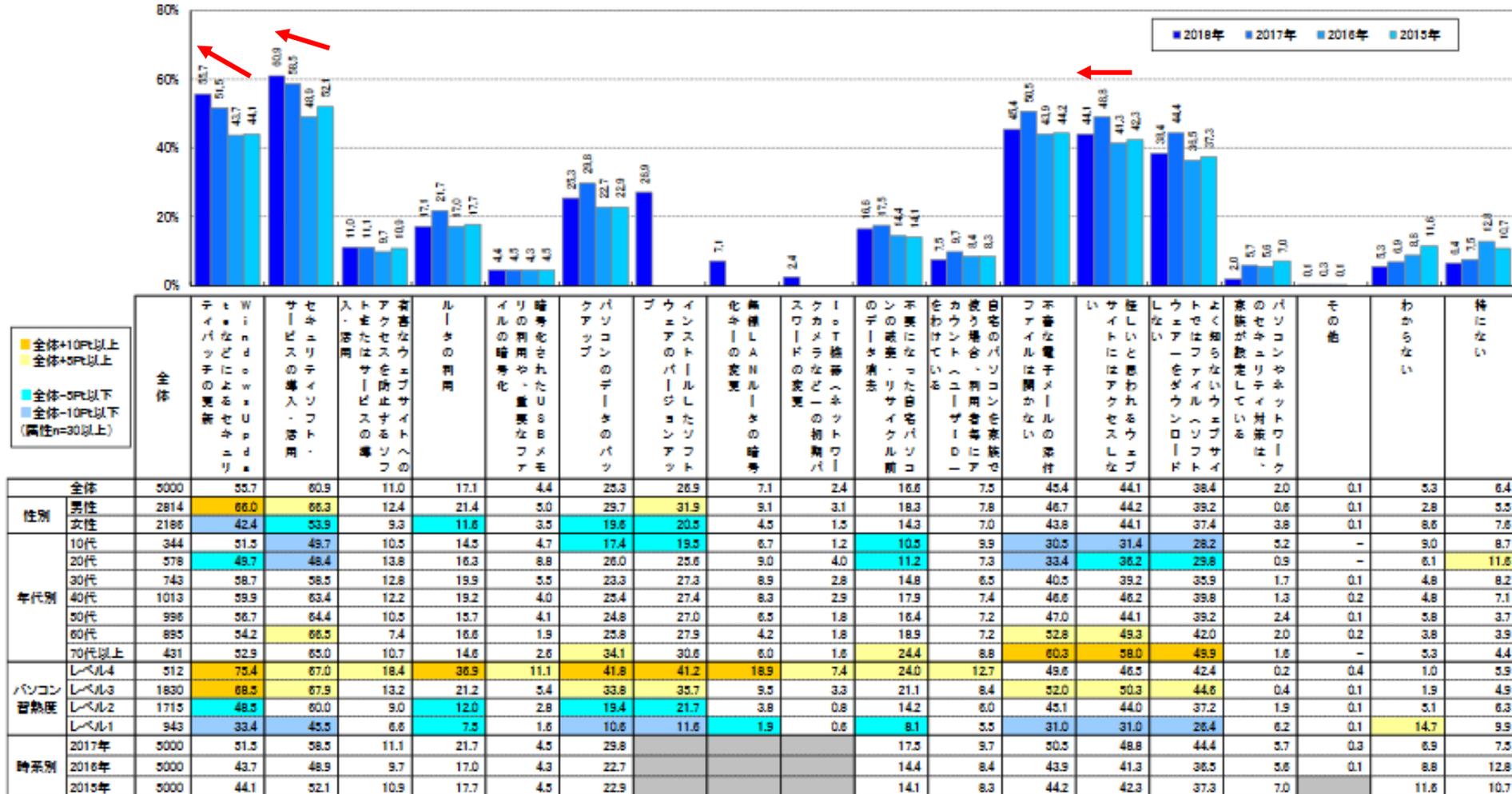
	全体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体+10Pt以上 ■ 全体+5Pt以上 ■ 全体-5Pt以下 ■ 全体-10Pt以下 (属性n=30以上) 									
		全体	パソコンには、ログインパスワードを設定している	ウイルス対策ソフトのパターンファイルは常に最新の状態でしている	氏名や住所、クレジットカード番号などを入力する時は、アドレスバーのURLを必ずチェックし、安全な設定になっているかを確認する	ブラウザのセキュリティ設定は常に高くし、表示されない場合だけ指示に従って設定している	ウェブ閲覧中に、意図しないアプリケーションのインストールファイルがダウンロードされる場合は、キャンセルする	OSのアップデートと共に、インストールしているソフトウェアも最新のバージョンに更新している	個人のホームページや怪しいサイトにあるソフトウェアは、ウイルスに感染する可能性が高いので使わない	知らない人からの電子メールの添付ファイルは、開かずに削除する	上記にあてはまるものはない
性別	全体	5000	66.0	57.0	35.9	27.0	54.7	40.3	45.9	63.5	6.7
性別	男性	2814	67.2	64.3	38.4	28.7	57.6	46.8	47.1	62.5	6.4
	女性	2186	64.4	47.8	32.8	24.7	50.9	31.9	44.5	64.6	7.1
年代別	10代	344	67.2	54.7	31.1	28.2	45.9	34.6	35.5	50.6	6.4
	20代	578	64.4	47.1	36.0	26.3	47.2	36.2	33.7	46.5	10.0
	30代	743	64.6	56.1	36.6	27.7	52.6	39.7	41.3	58.4	8.3
	40代	1013	65.4	58.1	34.0	29.3	57.3	42.6	45.8	63.4	8.3
	50代	996	65.7	58.1	39.1	27.3	57.2	41.5	48.8	67.8	6.2
	60代	895	67.0	60.6	33.6	23.4	56.8	41.9	52.4	72.0	3.6
	70代以上	431	69.6	60.8	40.8	26.7	58.7	40.1	58.7	77.7	3.9
パソコン習熟度	レベル4	512	68.4	71.9	53.3	39.3	64.5	58.2	45.5	61.3	7.4
	レベル3	1830	69.7	67.5	42.0	32.9	62.9	50.8	49.8	66.3	4.8
	レベル2	1715	64.7	52.4	31.1	23.8	51.7	34.8	47.9	64.6	5.8
	レベル1	943	59.8	36.7	23.5	14.5	38.7	20.5	35.0	58.9	11.8
時系別	2017年	5000	65.1	50.8	29.2	22.1	46.5	33.2	37.9	59.6	8.6
	2016年	5000	55.9	42.1	23.2	16.5	37.2	26.5	32.7	53.6	14.8
	2015年	5000	56.1	43.5	22.8	18.4	35.2	25.9	32.0	49.6	13.9
	2014年	5000	55.8	50.3	27.6	24.1	48.1	37.6	39.9	60.7	9.1

③ 情報セキュリティ対策の実施状況

対策状況

- 情報セキュリティ対策で最も高いのは、「セキュリティソフト・サービスの導入・活用」(60.9%)である。次いで「WindowsUpdateなどによるセキュリティパッチの更新」(55.7%)、「不審な電子メールの添付ファイルは開かない」(45.4%)、「怪しいと思われるウェブサイトにはアクセスしない」(44.1%)と続く。
- 性別で見ると、男性は「WindowsUpdateなどによるセキュリティパッチの更新」が10.3ポイント全体に比べて高い。
- 年代別で見ると、70代以上は「不審な電子メールの添付ファイルは開かない」が14.9ポイント、「怪しいと思われるウェブサイトにはアクセスしない」が13.9ポイント、「よく知らないウェブサイトではファイル(ソフトウェア)をダウンロードしない」が11.5ポイント全体に比べて高い。
- パソコン習熟度で見ると、レベル4は「WindowsUpdateなどによるセキュリティパッチの更新」が19.7ポイント、「ルータの利用」が19.8ポイント、「パソコンのデータのバックアップ」が16.5ポイント、「インストールしたソフトウェアのバージョンアップ」が14.3ポイント、「無線LANルータの暗号化キーの変更」が11.8ポイント全体に比べて高い。
- 前年(2017年)と比較すると、「よく知らないウェブサイトではファイル(ソフトウェア)をダウンロードしない」が6ポイント、「不審な電子メールの添付ファイルは開かない」が5.1ポイント減少している。

【Q20】 あなた自身が所有するパソコンや自宅のネットワークについて、現在実施しているセキュリティ対策をすべて選択してください。(お答えはいくつでも)



※「インストールしたソフトウェアのバージョンアップ」「無線LANルータの暗号化キーの変更」「IoT機器(ネットワークカメラなど)の初期パスワードの変更」は今年度から追加した設問

※「WindowsUpdateなどによるセキュリティパッチの更新」→2017年以前は「WindowsUpdate等によるセキュリティパッチの更新」

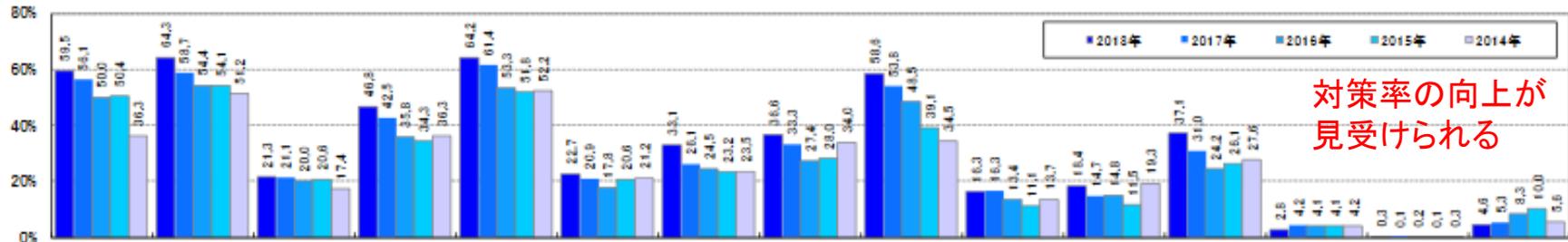
④ 金融機関のインターネットバンキングの利用について

対策状況

- 金融機関のインターネットバンキングの利用について最も高いのは、「ウイルス対策ソフトは常に最新の状態にしている」(64.3%)である。次いで「預金残高を定期的に確認する」(64.2%)、「利用するブラウザを常に最新の状態にしている」(59.5%)、「ワンタイムパスワードを利用している」(58.6%)と続く。
- 性別でみると、男性は「利用するブラウザを常に最新の状態にしている」が7.4ポイント、「ウイルス対策ソフトは常に最新の状態にしている」が6.2ポイント全体に比べて高い。
- 年代別でみると、70代以上は「金融機関が提供しているセキュリティソフトを利用している」が11.4ポイント、「金融機関からのパスワードなどの問い合わせに応じない」が10.9ポイント全体に比べて高い。
- パソコン習熟度でみると、レベル4は「利用するブラウザを常に最新の状態にしている」が17.9ポイント、「ウイルス対策ソフトは常に最新の状態にしている」が13.9ポイント、「URLやメールアドレスを確認する」が16ポイント、「ブラウザでURLが表示されるアドレスバー(もしくは一部)が緑色になっていることを確認する」が14.5ポイント全体に比べて高い。
- 前年(2017年)と比較すると、「URLやメールアドレスを確認する」が7ポイント、「利用するサイトは、あらかじめブックマークに登録しアクセスしている」が6.1ポイント、「ウイルス対策ソフトは常に最新の状態にしている」が5.6ポイント増加している。

【Q27】 主に利用している金融機関の「インターネットバンキング」を利用するうえで、あてはまるものをすべて選択してください。(お答えはいくつでも)

n=インターネットバンキング利用者(Q3)



		新しい状態にしている	最新のウイルス対策ソフトは常に最新の状態にしている	金融機関が提供しているセキュリティソフトを利用している	金融機関からのパスワードなどの問い合わせに応じない	預金残高を定期的に確認する	乱数表・合言葉などの入力を入力しない	URLやメールアドレスを確認する	他のサービスのアカウントとは異なるパスワードにしている	ワンタイムパスワードを利用している	ワンタイムパスワードが表示されるアドレスバー(もしくは一部)が緑色になっていることを確認する	ブラウザでURLが表示されるアドレスバー(もしくは一部)が緑色になっていることを確認する	登録している	メールでのワンタイムパスワード通知サービスは、携帯電話のメールアドレスを登録している	利用するサイトは、あらかじめブックマークに登録しアクセスしている	設定している	パソコンやネットワークのセキュリティ対策は家族がしている	その他のセキュリティ対策をしている	行っていない	セキュリティ対策は何も行っていない
全体	1792	59.5	64.3	21.3	46.8	64.2	22.7	33.1	36.6	58.6	16.3	18.4	37.1	2.8	0.3	0.3	4.6			4.6
性別	男性	1168	66.9	70.5	22.8	49.4	65.9	25.3	35.3	61.5	17.6	19.4	40.8	1.5	0.3	0.3	3.9			3.9
	女性	624	45.7	52.9	18.6	41.8	60.9	17.6	29.0	36.2	13.9	16.5	30.1	5.3	0.5	0.5	5.9			5.9
年代別	10代	65	49.2	60.0	16.9	38.5	61.5	27.7	30.8	27.7	15.4	21.5	38.5	4.8	-	-	4.8			4.8
	20代	133	59.4	61.7	15.0	36.8	57.9	27.8	36.8	39.8	47.4	24.8	18.8	27.1	1.5	-	8.3			8.3
	30代	272	57.7	60.3	13.2	39.0	61.4	22.8	35.3	36.0	54.4	18.4	16.9	36.0	3.3	-	6.3			6.3
	40代	438	61.2	63.2	17.1	47.3	59.6	20.1	34.7	35.4	58.0	16.7	16.2	35.2	1.6	-	5.3			5.3
	50代	400	62.5	65.8	23.0	48.3	65.5	23.3	32.8	35.8	58.3	17.8	18.5	40.8	3.0	0.5	2.5			2.5
	60代	328	60.1	68.6	29.6	51.2	70.1	21.3	27.7	41.2	62.8	12.8	22.9	39.9	4.6	0.3	3.7			3.7
	70代以上	158	53.2	66.0	32.7	57.7	72.4	24.4	34.6	34.6	66.0	8.3	16.0	37.2	1.3	1.9	3.8			3.8
パソコン習熟度	レベル4	234	77.4	78.2	20.9	54.7	69.2	30.8	49.1	44.4	65.4	30.8	21.8	44.9	0.9	-	3.8			3.8
	レベル3	807	67.0	69.3	19.7	49.6	65.4	24.7	35.9	38.4	60.8	17.5	20.1	42.0	1.9	0.2	3.7			3.7
	レベル2	564	50.4	58.7	23.9	43.6	62.1	19.0	28.4	33.9	53.2	10.8	15.1	30.1	3.0	0.7	4.4			4.4
	レベル1	187	32.1	42.6	20.9	34.2	58.8	15.0	20.9	27.3	57.2	9.6	17.1	27.3	8.6	-	9.6			9.6
時系列	2017年	2093	56.1	58.7	21.1	42.5	61.4	20.9	26.1	33.3	53.8	16.3	14.7	31.0	4.2	0.1	5.3			5.3
	2016年	2012	50.0	54.4	20.0	35.8	59.3	17.8	24.5	27.4	48.5	13.4	14.8	24.2	4.1	0.2	8.3			8.3
	2015年	1628	50.4	54.1	20.6	34.3	51.8	20.6	23.2	28.0	39.1	11.1	11.5	26.1	4.1	0.1	10.0			10.0
	2014年	1599	36.3	51.2	17.4	36.3	52.2	21.2	23.5	34.0	34.5	13.7	19.3	27.6	4.2	0.3	5.6			5.6

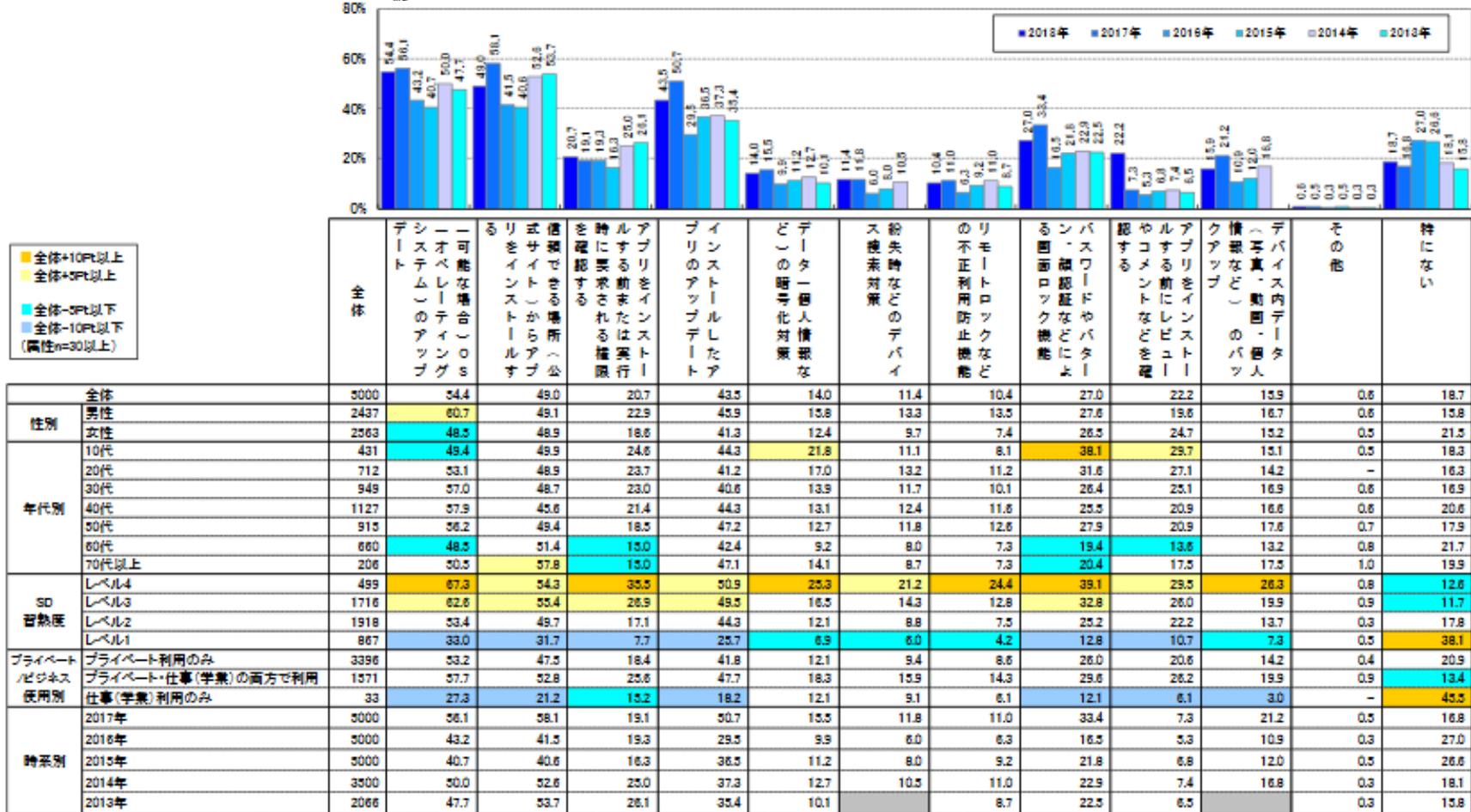
※「金融機関が提供しているセキュリティソフトを利用している」→2017年度以前は「金融機関が提供しているセキュリティ対策ソフトを利用している」
 ※「金融機関からのパスワードなどの問い合わせに応じない」→2017年度以前は「金融機関からのパスワード等の問い合わせに応じない」
 ※「その他のセキュリティ対策をしている」→2017年度以前は「その他」

⑤ スマートデバイスのセキュリティ対策の実施状況

対策状況

- スマートデバイスのセキュリティ対策の実施状況について最も高いのは、「(可能な場合)OS(オペレーティングシステム)のアップデート」(54.4%)である。次いで「信頼できる場所(公式サイト)からアプリをインストールする」(49.0%)、「インストールしたアプリのアップデート」(43.5%)、「パスワードやパターン、顔認証などによる画面ロック機能」(27.0%)と続く。
- 性別で見ると、男性は「(可能な場合)OS(オペレーティングシステム)のアップデート」が6.3ポイント全体に比べて高い。
- 年代別で見ると、10代は「パスワードやパターン、顔認証などによる画面ロック機能」が11.1ポイント全体に比べて高い。
- SD習熟度で見ると、レベル4は多数の項目が10ポイント以上全体に比べて高く、レベル1は「特になし」が19.4ポイント全体に比べて高い。
- プライベート/ビジネス使用別で見ると、仕事(学業)利用のみは「特になし」が26.8ポイント全体に比べて高い。
- 前年(2017年)と比較すると、「アプリをインストールする前にレビューやコメントなどを確認する」が14.9ポイント増加している。一方、「信頼できる場所(公式サイト)からアプリをインストールする」が9.1ポイント、「インストールしたアプリのアップデート」が7.2ポイント、「パスワードやパターン、顔認証などによる画面ロック機能」が6.4ポイント、「デバイス内データ(写真、動画、個人情報など)のバックアップ」が5.3ポイント減少している。

[Q21] あなた自身が所有するスマートデバイスについて、現在実施しているセキュリティ対策をすべて選択してください。(お答えはいくつでも)

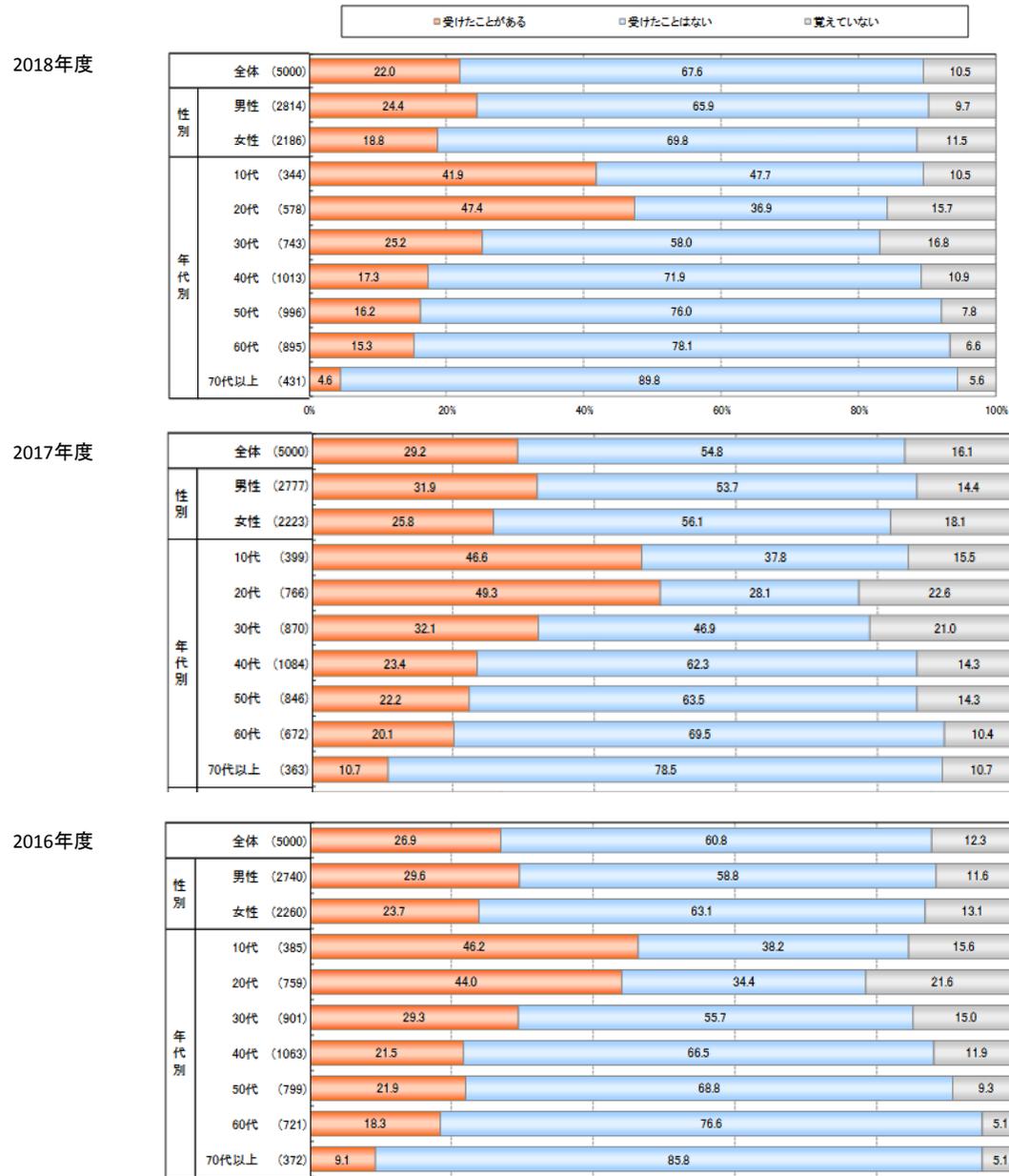


※「アプリをインストールする前または実行時に要求される権限を確認する」→2017年度以前は「アプリをインストールする前にアクセス許可を確認する(Androidのみ)」
 ※「データ(個人情報など)の暗号化対策」→2017年度以前は「データ(個人情報等)の暗号化対策」 ※「紛失時などのデバイス検索対策」→2017年度以前は「紛失時等のデバイス検索対策」
 ※「リモートロックなどの不正利用防止機能」→2017年度以前は「リモートロック等の不正利用防止機能」
 ※「アプリをインストールする前にレビューやコメントなどを確認する」→2017年度以前は「アプリをインストールする前に独自にセキュリティチェックなどを行っているサイト(アンドロイダー、等)や評価を確認する」
 ※「デバイス内データ(写真、動画、個人情報など)のバックアップ」→2017年度以前は「デバイス内データ(写真、動画、個人情報、等)のバックアップ」

⑥ インターネットや情報に関する倫理教育の受講経験

対策状況

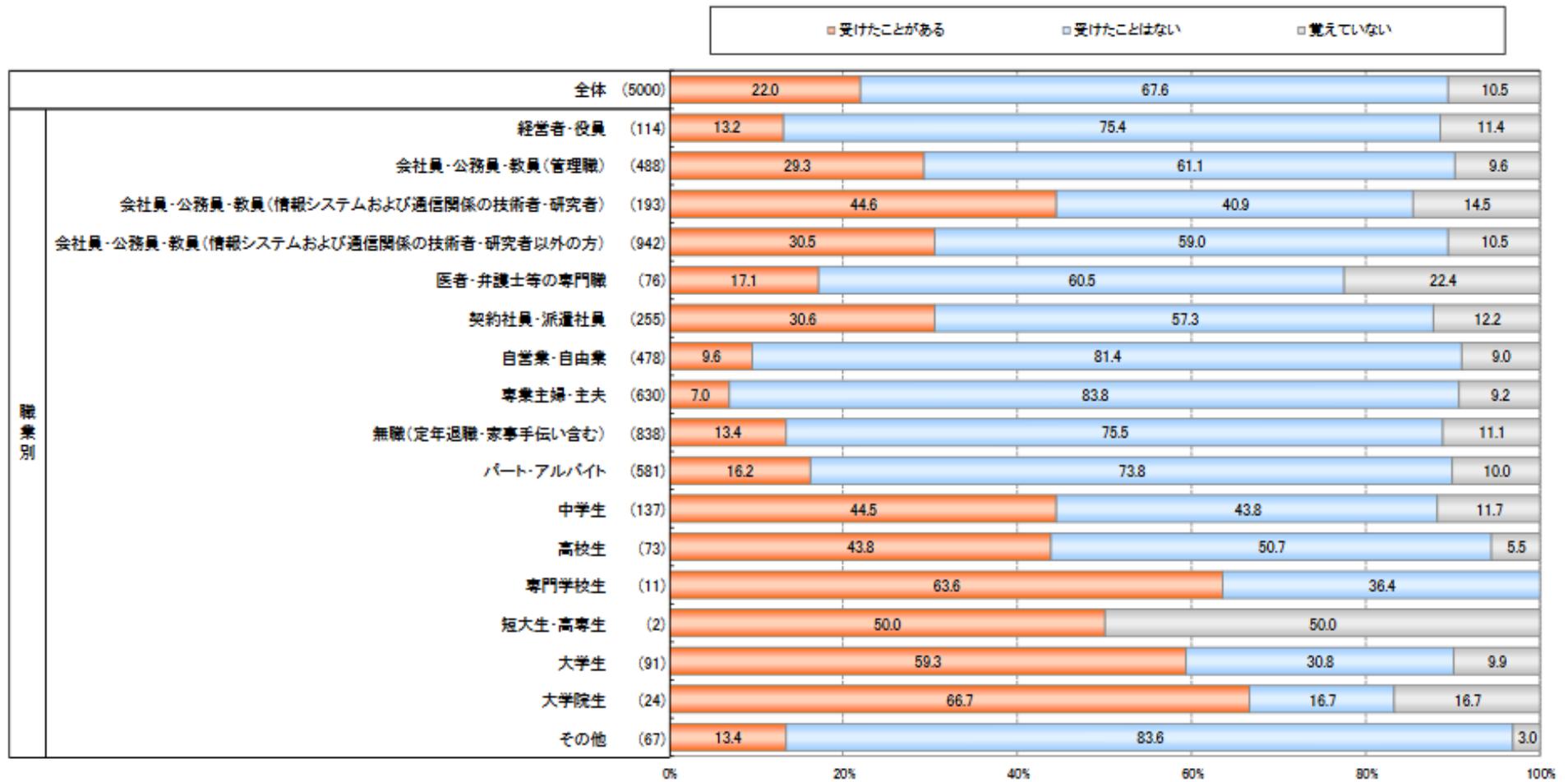
【Q1】 これまでにインターネットや情報に関する倫理教育を受けたことがありますか。あてはまるものを選択してください。(お答えは1つ)



10代、20代の
受講経験が多い

⑥ インターネットや情報に関する倫理教育の受講経験

対策状況



※今年度から全面改訂

出所: 2018年度 情報セキュリティの倫理に対する意識調査 - 調査報告書 - (情報処理推進機構) 上記はパソコンでのインターネット利用者を対象とした調査

⑦ 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果 (ILAS)

- 3年前との比較では、全体としての正答率は横ばい。
(「総合」の正答率で見ると、69.7% (2015年度) → 69.6% (2018年度) 。)
- 3年前との比較を項目別に見ると「3b. セキュリティリスク」の正答率が相対的に大きく上昇している一方で、「2c. 不適切利用リスク」の正答率が相対的に大きく下降している。
(3b. セキュリティリスク : 65.3% (2015年度) → 67.4% (2018年度) となっており、2.1%上昇。
2c. 不適切利用リスク : 82.4% (2015年度) → 80.2% (2018年度) となっており、2.2%下降。)

リスク分類	具体例	2015年度 (n=13,647)	2016年度 (n=14,812)	2017年度 (n=17,223)	2018年度 (n=12,626)
総合	-	69.7	67.2	68.8	69.6
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	72.9	71.8	73.8	73.6
1b. 有害情報リスク	公序良俗に反するような情報等	68.2	65.9	66.8	67.4
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	78.3	75.8	77.0	77.1
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	57.1	54.6	56.4	57.5
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存・歩きスマホ、マナー等	82.4	77.5	79.4	80.2
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	63.9	60.8	62.3	63.9
3b. セキュリティリスク	ID、パスワード、ウイルス等	65.3	64.3	65.6	67.4

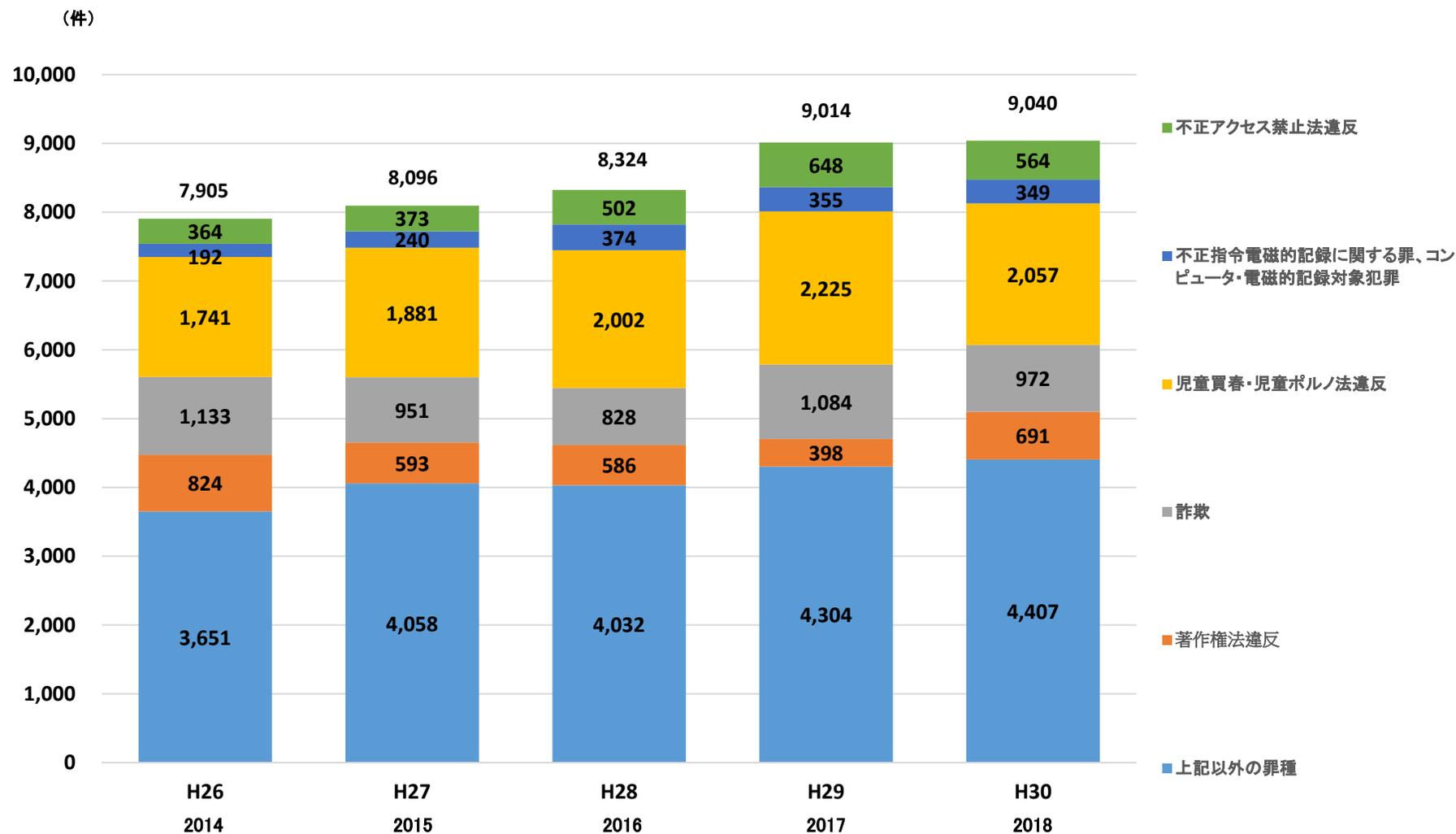
○ テスト及びアンケート調査の実施概要

2018年7月から2019年2月にかけて、全国78の高等学校等において、12,626名の1年生を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

所在地区分	設立区分	協力人数	平均点
特別区等 8校	国立・国立高専 3校	男性 6241人	男性 32.8点
中核市 14校	公立 68校	女性 6372人	女性 35.3点
その他 56校	私立 7校	性別無回答 13人	
計 78校		合計 12,626人	全体 34.1点 (49点満点)

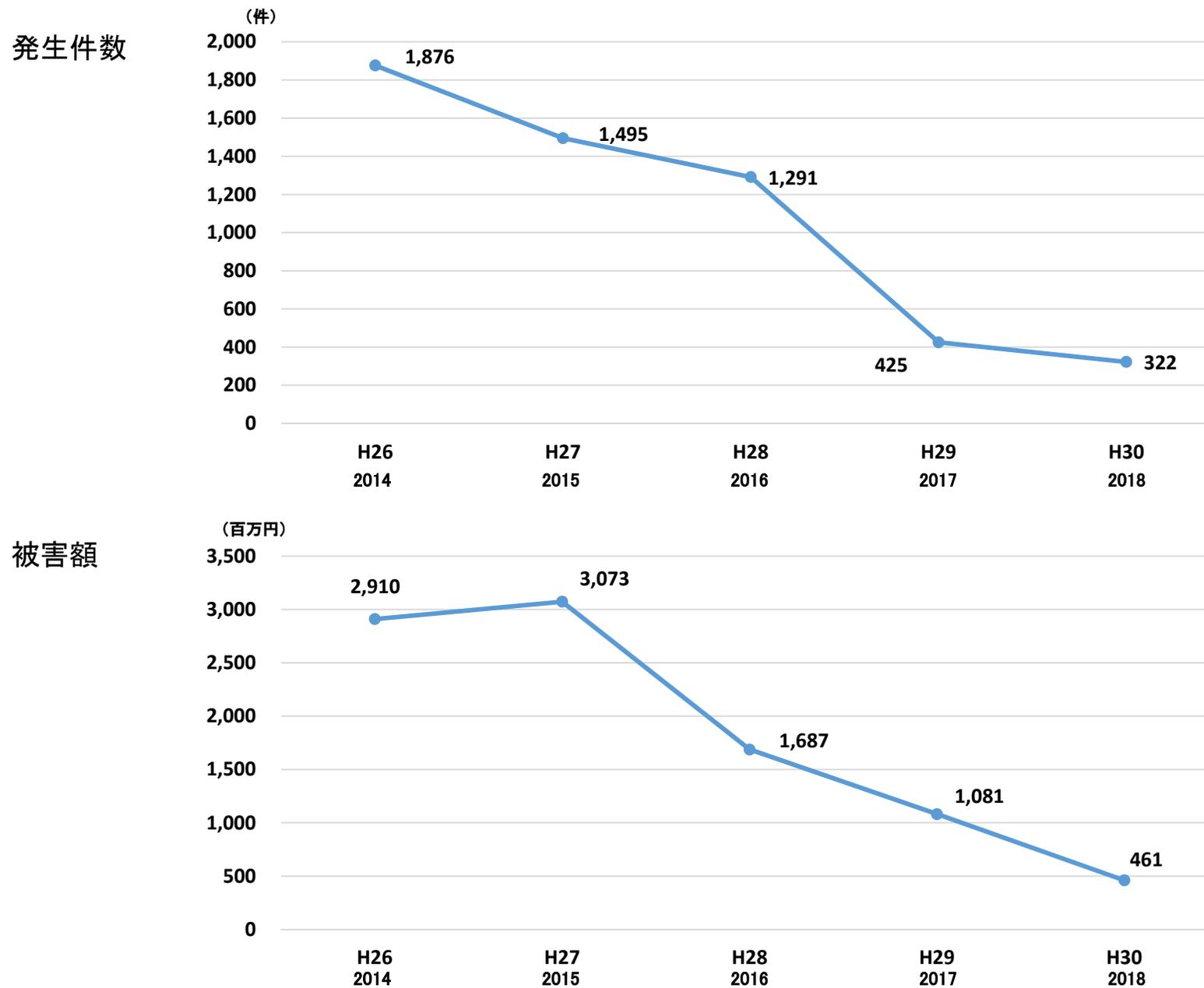
100%換算で69.6%
(次ページ以降、100%換算で示す)

⑧ サイバー犯罪の検挙件数



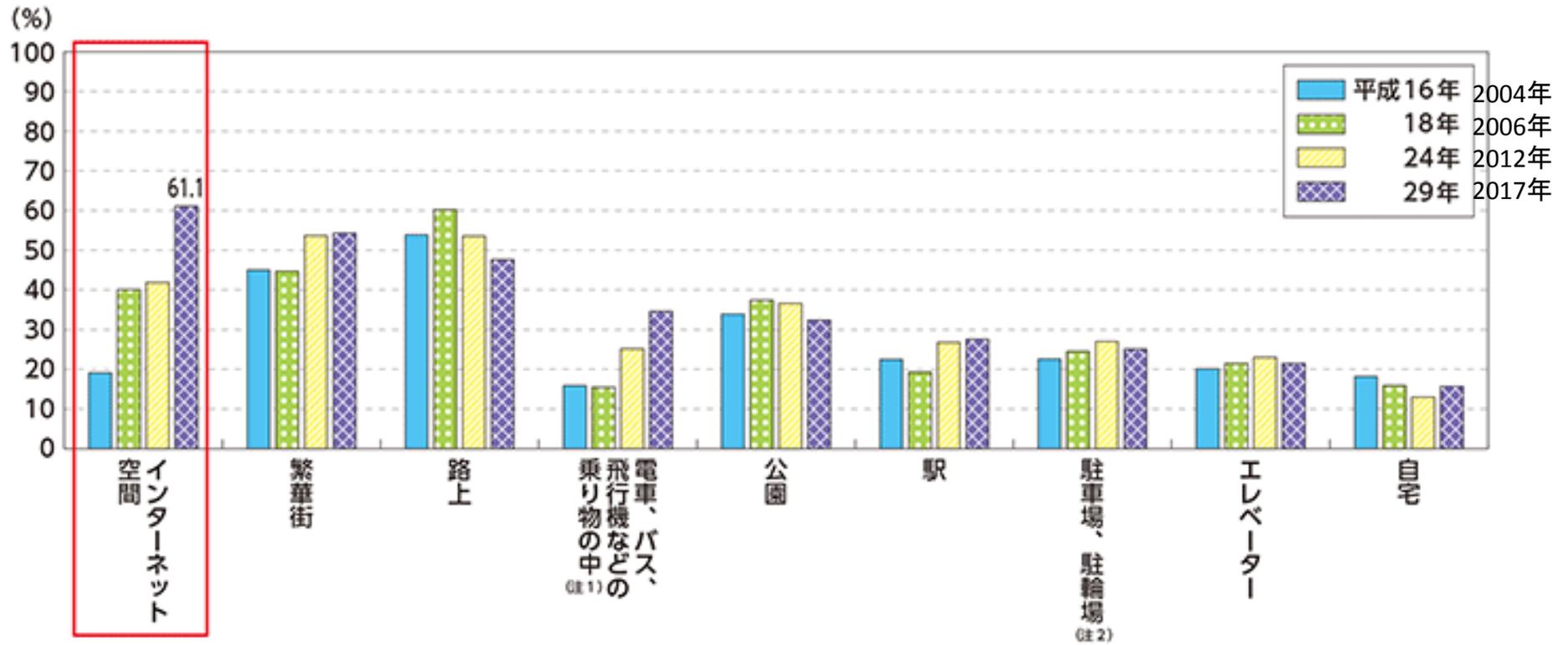
出所:平成30年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について(警察庁)

⑨ インターネットバンキングにおける不正送金被害



⑩ 治安に関する世論調査

問：あなたが、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になる場所はどこですか。(複数回答)

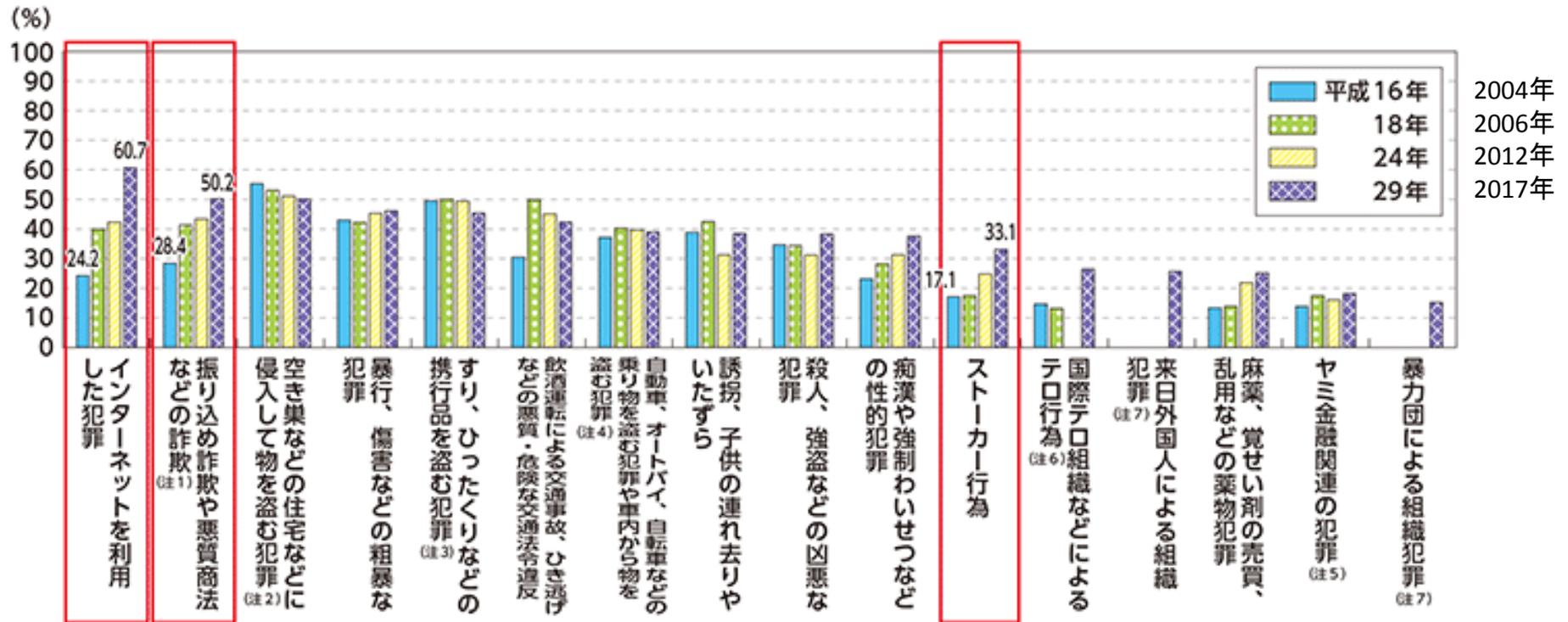


注1：16年の調査及び18年の調査では、「電車や飛行機などの乗り物の中」となっている。

注2：16年の調査及び18年の調査では、「駐車場」となっている。

⑩ 治安に関する世論調査

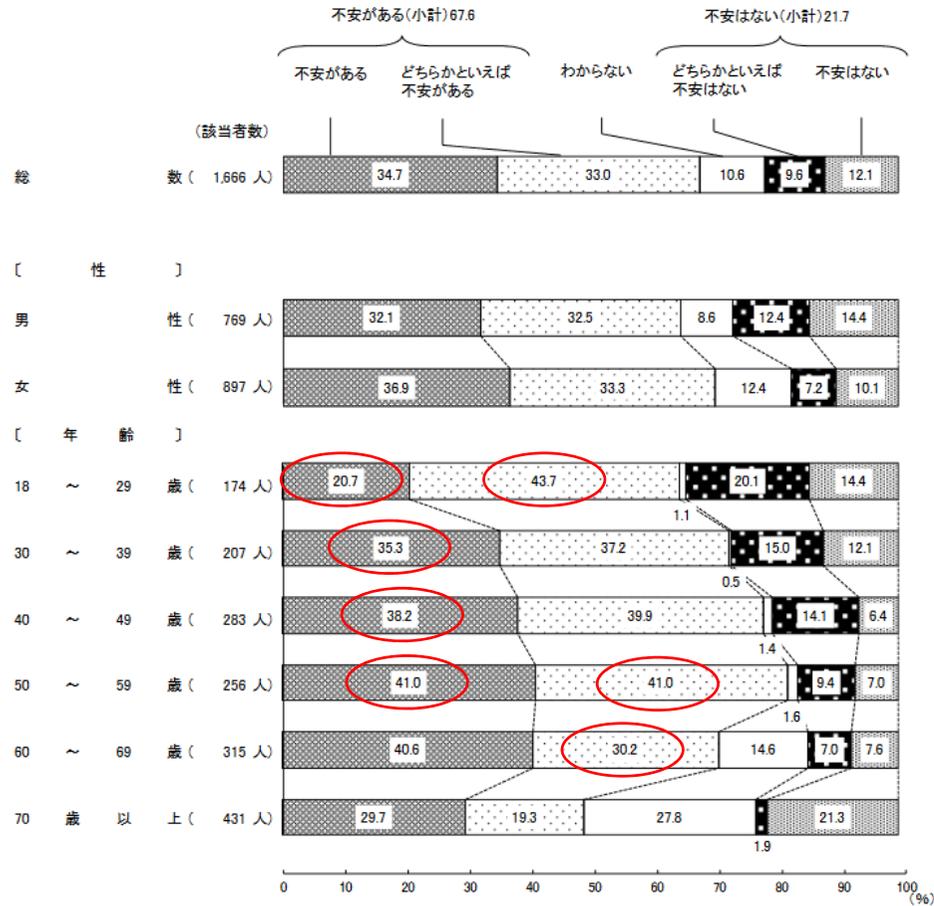
問：あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪は何ですか。（複数回答）



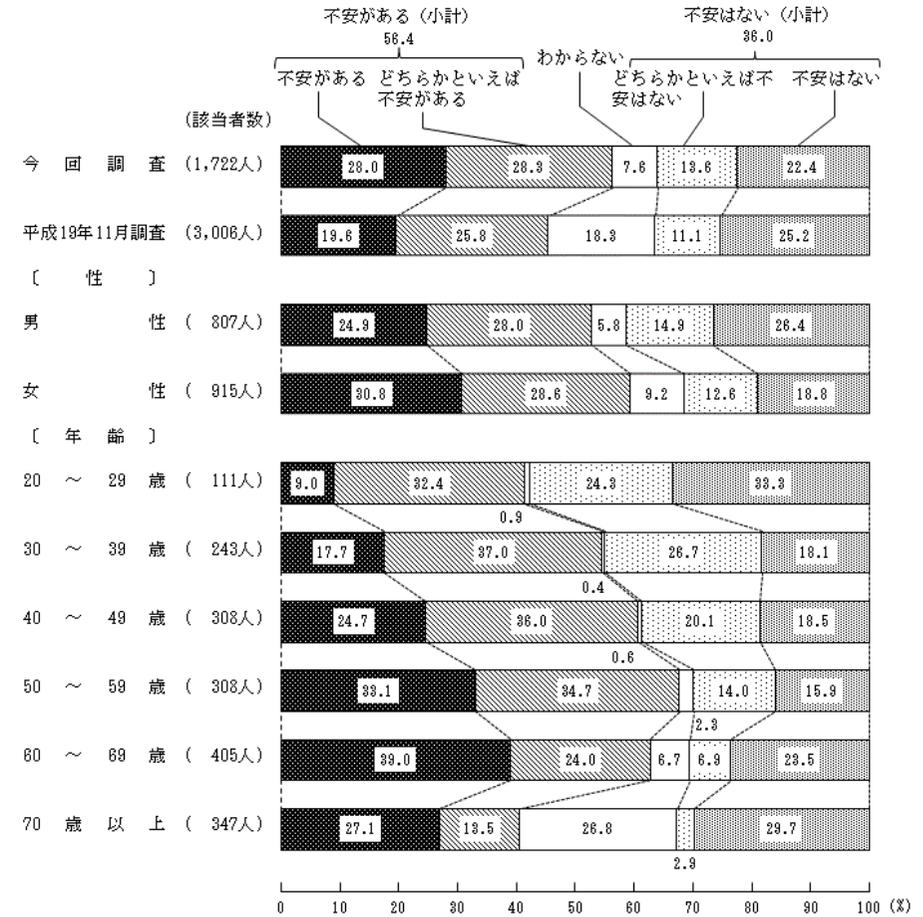
注1：16年の調査では、「いわゆる「オレオレ詐欺」や悪質商法などの詐欺」となっている。
 注2：16年の調査及び18年の調査では、「自宅に入る空き巣などの犯罪」となっている。
 注3：16年の調査及び18年の調査では、「すり、ひったくりなどの犯罪」となっている。
 注4：16年の調査及び18年の調査では、「自動車、オートバイなどの乗り物盗や車内の物を盗む車上ねらい」となっている。
 注5：16年の調査及び18年の調査では、「ヤミ金融事犯」となっている。
 注6：24年の調査では、選択肢にない。
 注7：16年の調査、18年の調査及び24年の調査では、選択肢にない。

⑪ インターネット利用に関連するトラブルへの不安感

2018年調査



2015年調査



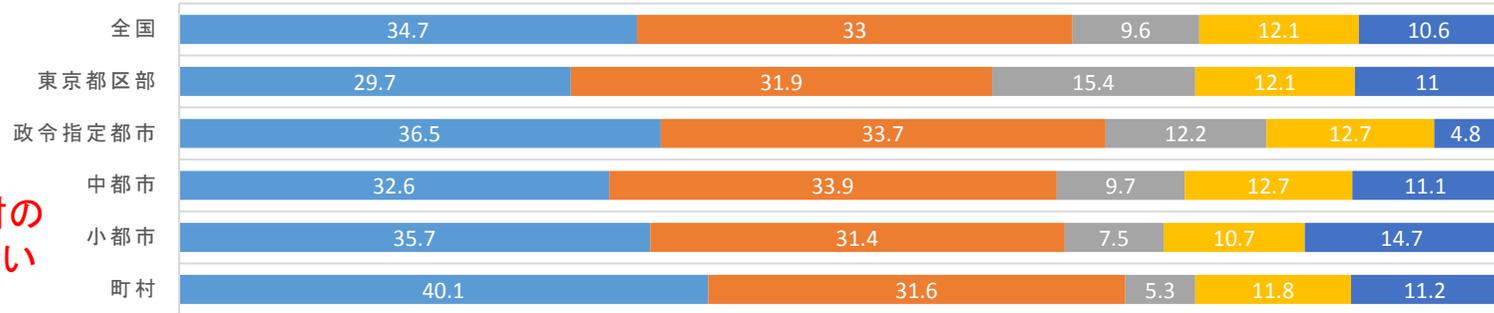
出所:2018年、2015年 インターネットの安全・安心に関する世論調査(内閣府)

⑫ インターネット利用に関連するトラブルへの不安感(地域別)

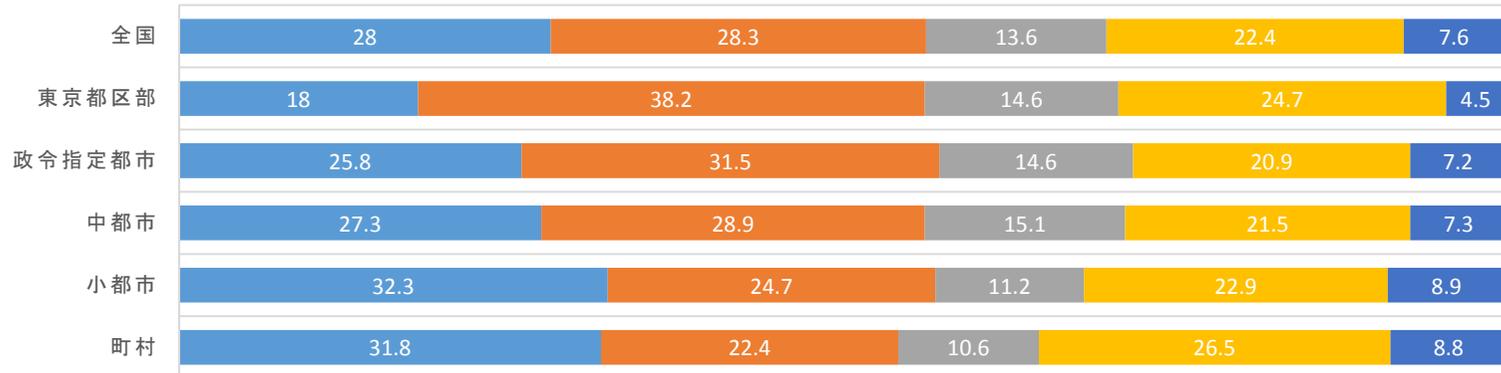
■ 不安がある ■ どちらかといえば不安がある ■ どちらかといえば不安はない ■ 不安はない ■ わからない

2018年調査

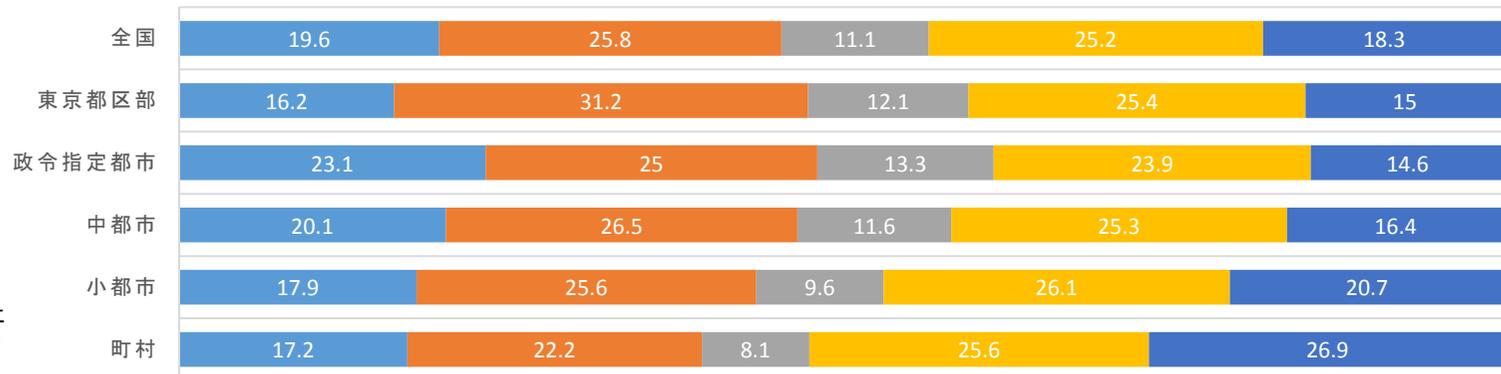
中都市～町村の不安感が大きい



2015年調査



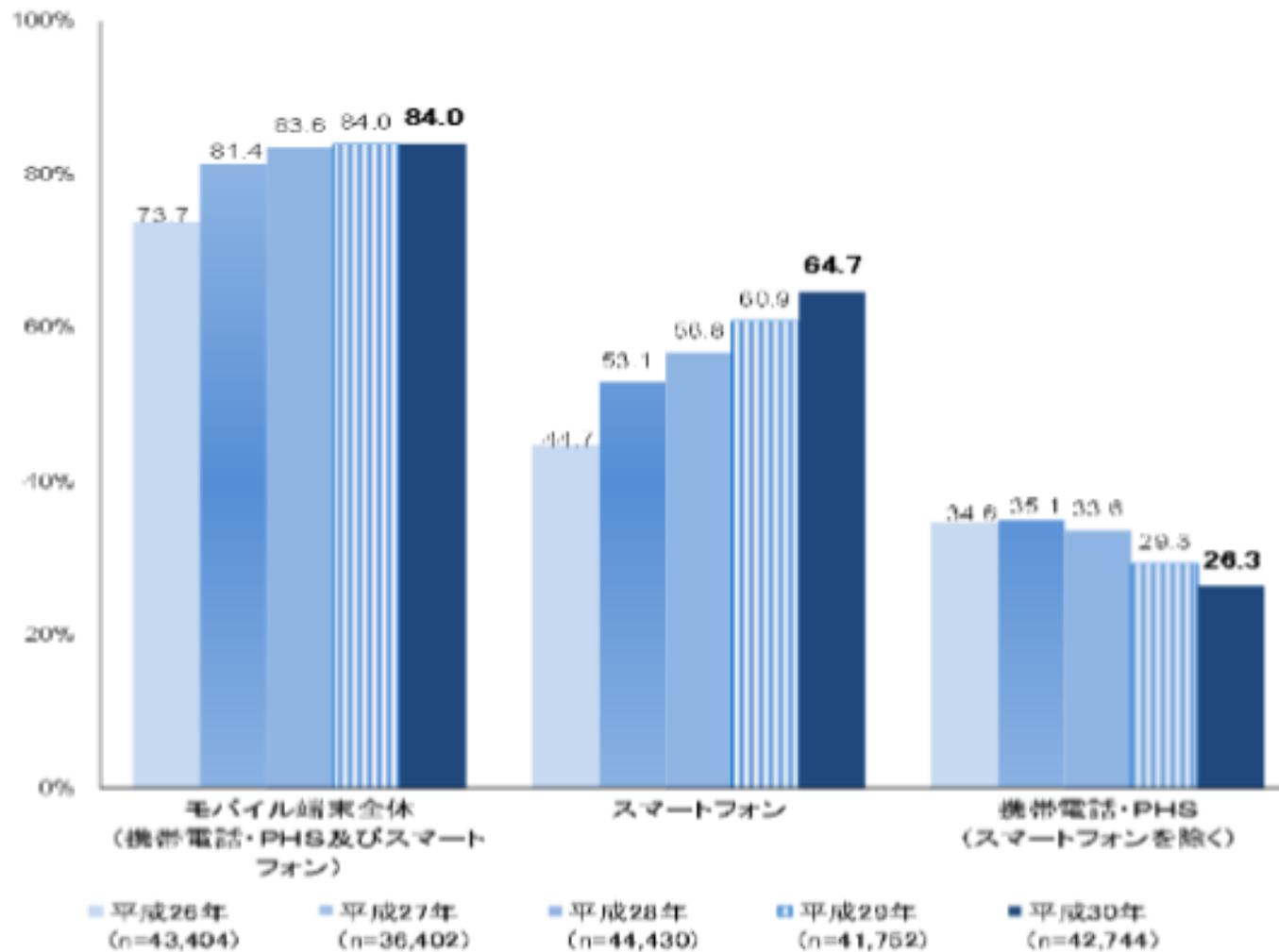
2007年調査



出所: インターネットの安全・安心に関する世論調査(内閣府)のデータを基に事務局作成

モバイル端末の保有状況の推移

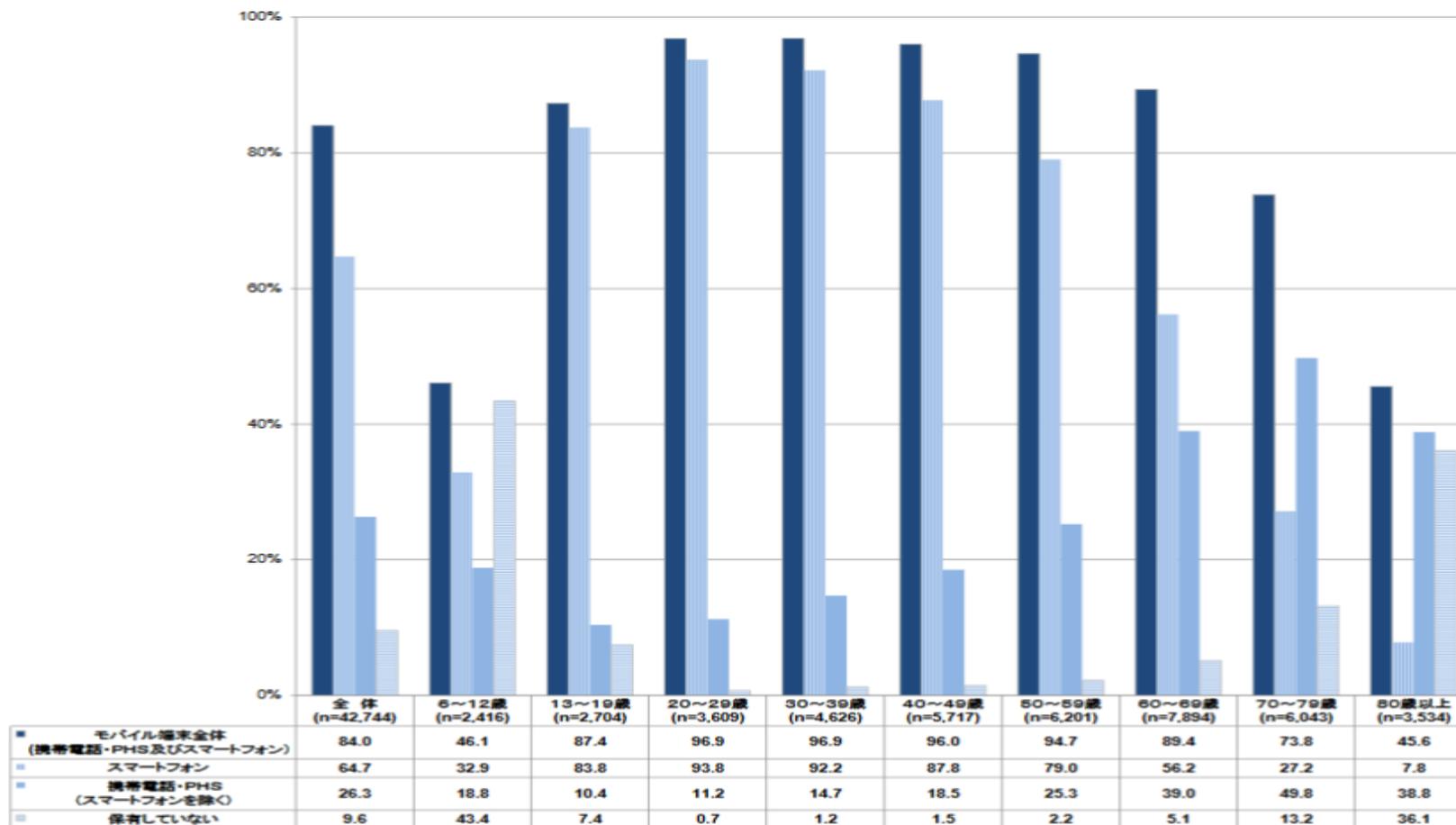
(参考)



出所: 2018年度 通信利用動向調査(総務省)

モバイル端末の保有状況の推移(年齢階層別)

(参考)



出所:2018年度 通信利用動向調査(総務省)